



蒼穹

あおそら

八戸市立長者中学校
学校だより第13号
文責：石毛 清八
平成29年11月2日
TEL (0178) 43-4871

長者中文化祭 全力で駆け抜ける

2017年 文化祭テーマ『駆』

10月22日、文化祭が行われた。今年のテーマは『駆(かける)』。全校生徒は約2週間の準備期間、まさに駆け抜ける様なスピードでステージ発表の練習や作品の制作などに取り組み、日頃の成果を発表した。午前中は、生徒会のオープニングビデオ、各種弁論大会出場者の発表、海外派遣報告、各学年によるダンスや劇、吹奏楽部による演奏。午後は文化祭のトリとなる3学年による演劇「ぼくたちの銀河鉄道」が上演され、幻想的な映像と迫真の演技で会場を盛り上げた。

感動の余韻

校長 石毛 清八

文化祭の余韻がまだ残っています。

弁論、報告、ダンス、演奏、演劇…。ステージの幕が開くたびに次々に繰り広げられる数々のパフォーマンス。部屋を移るたびに新たな世界が広がる展示会場。まさに文化祭テーマのごとく、あっという間に過ぎた楽しい一日でした。

今年度の文化祭は「駆(かける)」。駆けるという言葉は、疾走する、空を飛び、敵に向かって攻め進むというようなたくさんの意味を含んでいます。そこには、生徒の皆さんがそれぞれの得意とするところを活かしながら、仲間とともに、目標に向かって全力で走り抜くという願いが込められています。

それぞれの部門では目標に向かう途中に幾多の困難や挫折もあったはずですが、そんな時は、仲間同士励まし合いながら、「この文化祭を何としても成功させるんだ」という負けじ魂を発揮しながら全速力で駆け抜けてきたのです。そしてこの日、ゴールテープを切ったのです。本当によく頑張りました。生徒の皆さん、どうぞこの文化祭を通して成長した自分をほめてあげてください。やり切った！と胸を張ってください。

さて、一つのゴールは、次の新たなる目標へのスタートでもあります。その目標は一人一人違うし、困難なこともあるかもしれませんが、でも、この経験を生かし、臆せず、焦らず、黙々と走り抜け、次の「頂」を目指してほしいと思います。





翔くんが『学び合い』



先週の土曜日、何気なく居間のTVを見ると、学園もののドラマをやっていた。それはある高校の授業

責任を果たすことの大切さを学んだ

前生徒会長 3年1組 長野 朗大
今回の文化祭は、一人一人が個性を十分に発揮し、大成功に終わることができたと思います。全校生徒の皆さん、お疲れ様でした。

これからは、1、2年生が長者中学校をリードしていってください。勉強、部活、行事など大変なこともあるかと思いますが、皆さんならできるはずです。生徒会テーマでもあるそれぞれの「頂」に向かって挑戦を続けてください。

僕は生徒会長として活動してきた2年間、責任を果たすことの大切さや皆で何かを成し遂げることの楽しさなど多くのことを学びました。そして、生徒会活動をたくさんの方々を支えていただきました。協力してくれた全校生徒の皆さん、見守ってくださった先生方、一緒にがんばってきた生徒会役員の皆さんに心から感謝しています。本当にありがとうございました。

生徒全員が充実できる長者中を

新生徒会長 2年3組 久保田 練
今回の文化祭は、全校生徒が協力して創り上げた最高の文化祭でした。各学年の発表・展示、教科展、美術部展、吹奏楽部の演奏、それらすべてに感動しました。

生徒会の活動では、役員全員が責任感をもち、前向きな姿勢で取り組むことができましたが、先輩が引退した今、生徒会長としての責任の重さを感じています。これからは生徒会長として、長者中学校を引っ張っていくこととなりますが、会長としての責任、誇りをもち、生徒全員が充実できる長者中学校を創るため、そして、生徒会テーマ「頂～大切な仲間と共に～」のもと、生徒全員が互いの考えを尊重し、共に助け合えるようにするために、生徒会役員、先生方、そして全校生徒の力を借りて活動していきたいと思っています。一年間よろしくお願いします。

風景。黒板には名前が書かれたマグネットシートが並んでいる。あれっ…これは『学び合い』の授業？そして教壇に立っているのは何と人気アイドルグループ「嵐」の桜井翔くんではないか。

ご覧になった人もいると思うが、これは現在放映中の某TV局のドラマ「先に生まれただけの僕」の第3話。桜井翔くんの役どころは一般企業から転職してきた私立高校の校長先生。欠員となった先生の代わりに数学の授業をしなければならなくなり、書店で見つけたアクティブ・ラーニングの本を参考に慣れない授業をするという設定。授業が始まり、生徒たちが分からないところを聞き合い、教え合う『学び合い』が展開される。彼はアクティブ・ラーニングの授業をしたかったのだが、うまくいかない。授業の「振り返り」で、生徒に向かってこう語った。「みんなの先生は、みんなの中にいます。でも、そううまく行かないよな。」

ドラマの中での話とはいえ、あの桜井翔くんが『学び合い』の授業をしているのは、なんだか夢を見ているようで不思議な感覚だった。

文部科学省は2020年度予定の学習指導要領本格実施に向け、「主体的・対話的で深い学び」（いわゆるアクティブ・ラーニング）の充実を提案している。一斉指導からの脱却を図り、学習者が能動的に課題を見つけ、解決に向けて求め続け、成果を出すまでの過程を、学ぶ側が主体的に学ぶ学習方法である。本校では時代に先駆け、5年前からアクティブ・ラーニングの手法の一つである『学び合い』の授業に取り組んできた。「新しいもの」に挑戦するときには必ず通り抜けねばならない様々な課題や困難を乗り越えてここまで来たが、ようやく時代が追いついてきたということだろうか。

「みんなの先生は、みんなの中にいる」。生徒も教師も、全員ががそう実感できるような生徒集団、教師集団をつくっていききたいものだ。